



日本の近代化の源流を築いた横須賀製鉄所の創設から150年目を迎えるのを記念し、
 当時をふり返る二つの展覧会を横須賀美術館で開催します。

1865(慶応元)年に江戸幕府によって建設が始められた横須賀製鉄所は、その後、明治政府にひきつがれ1871(明治4)年に横須賀造船所となりました。1903(明治36)年には海軍直営の軍需工場である横須賀海軍工廠となり、ここで多くの軍艦が建造されました。戦後は米軍に接収され米海軍横須賀基地となり、現在も多くの設備が米軍の管理下にあります。

横須賀製鉄所(造船所)創設150周年記念事業 特別展示

横須賀寫眞

エミール・ド・モンゴルフィエ関連資料

今年、横須賀製鉄所の建設がはじめられてから150年目の節目にあたります。これを記念して、当時の横須賀に住んでいたフランス人、エミール・ド・モンゴルフィエが撮影した写真や、手紙などの貴重な資料をご紹介します。

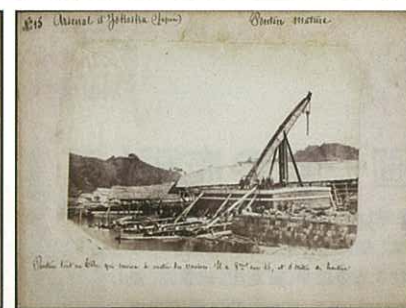
これらは、日仏交流史を研究されているクリスチャン・ポラック氏が、最近フランスにいるエミールの子孫を訪ねて発見したものです。横須賀製鉄所の建設がはじまった頃のようによくわかり、そのほとんどが日本では初公開となる資料です。

? エミール・ド・モンゴルフィエ ってこんな人

エミール・ド・モンゴルフィエ(Emile Louis de Montgolfier 1842-1896)は、フランス、リヨン近郊の町アノネーで古くから製紙業を営む名家・モンゴルフィエ家に生まれました。一族には、1783年に世界ではじめて人間を乗せた熱気球を発明したことでよく知られているモンゴルフィエ兄弟もいます。

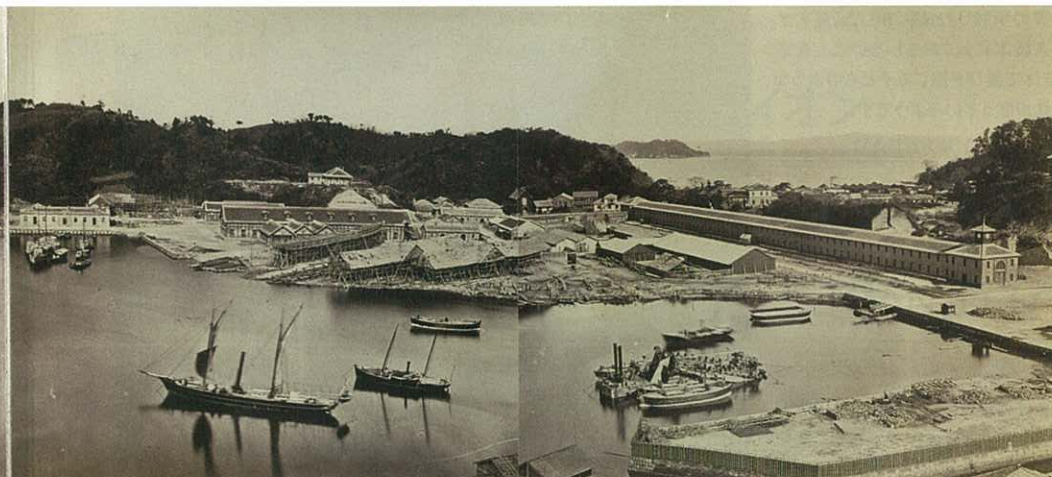
横須賀製鉄所をつくったレオンス・ヴェルニーもまた、モンゴルフィエ家の系譜に連なる人物です。特にエミールにとっては、母どうしが姉妹のいとこという親しい間柄でした。ヴェルニーが日本へ赴任するのにともなって、1866年来日。製鉄所の経理係として、幕末の日本に近代的な簿記を伝えました。また、当時まだ珍しい技術だった写真術をリヨンにいたころに身に付けており、旅の途中に目にしたさまざまな珍しい風景を写真によって記録し、家族への土産としました。その中には、1874年に日本を離れるまでの間に撮影した、横須賀製鉄所建設当時の写真もたくさん含まれています。

Emile Louis de Montgolfier



(上) 集合写真、1868年4月15日 後列右端がエミール。前列左から2人目、初代の観音埼灯台を設計したフローラン。
 (左下) 横須賀製鉄所、建設中の集会所 1868年8月12日 (右下) 横須賀製鉄所、フローティング・クレーン

会期	2015年10月3日(土)~12月13日(日)
会場	横須賀美術館・展示室8(「第3期所蔵品展」特別展示)
主催	横須賀市教育委員会
監修	クリスチャン・ポラック氏
協力	かながわ日仏協会



横須賀製鉄所全景